

The Japan Times [グローバル時代の就活に役立つ情報紙]

# The University Times

December 2012 Vol. 25

<http://jtimes.jp/utimes>

produced by IELTS by Eiken × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2012

## CONTENTS

■ Visit a Global Company: グローバル企業訪問

新日鐵住金株式会社

1 2

■ Journalist's Eye: 英字新聞記者の視点

「仕事と育児」/「法律サービス」

3

■ Career Centers: キャリアセンター探訪

明治大学

4

■ Learn About Industries: この業界を知りたい!

食品業界

5

■ Columns: IELTS Hot News / アゴス・ジャパンに聞く

英語プレゼン / 海外の学部

6

■ News in English

英文記事を読んでみよう

7

■ Studying Abroad in the USA: 私の米留留学 / 読んでほしいこの3冊

米留留学記 / 書籍紹介

8

■ Study Abroad Benefits: 留学で培う3つの力

勉強力・国際人力・キャリアプランカ

9

■ University's Challenge: 国際交流に取り組む大学

お茶の水女子大学

10

■ IELTS

スピーキングテストのコツ

11

■ Crossword and Trivia

読み物

12

Visit a Global Company: グローバル企業訪問

## 鉄という素材を通して 世界中の国づくりに貢献

シンニツテツスミキン

Vol. 15 新日鐵住金株式会社 ■ 新日鐵住金

日本の鉄鋼業をリードしてきた新日本製鐵株式会社と住友金属株式会社。2012年10月に両社統合により、新日鐵住

ないスピードで大きく変化してきている。とりわけ、急激な経済成長を遂げた新興国では、自動車やビル、橋梁、船舶、家電製品などあらゆる産業に用いられる鉄の需要が急速に拡大している。鉄は社会基盤を整備し、経済発展を遂げるために欠かさない素材。「鉄というのは、いわば国をつくっていく素材です」と、人事労政部の柳田さんは語る。

「これからは新興国が国づくりをして発展していく過程にあります。発展していくということは、自動車や船をたくさんついたり、ビルや橋の建設といったインフラを整えたりしていくこと。その中で、鉄が必要になってきます。そういった意味では、これからは日本よりも海



ルと英語のトレーニングを提供するアスパイアコミュニケーションズ代表取締役クラス・リーゼ氏、ジャパンタイムズでバイリンガル



3名の審査員

んは英語を使う機会が今後増えると考えている。「そういうときのために備えようと思い(このコンテストに) 参加しました」と語った。



授賞式の様子

# アゴス・ジャパンに聞く

## 海外の気になる学部



by 株式会社アゴス・ジャパン  
後藤道代

環境問題が国際的に注目されるようになったのは、1992年の環境と開発に関する国際連合会議（地球環境サミット）にて気候変動枠組条約が採択されてからです。

研究の中心を担うのは、最新技術開発を行うエンジニアリング(工学部)ですが、化学、物理学、数学、環境学、経済学、公共政策と多分野がクロスオーバーする、まさに新しい学問です。基盤となる知識が必要となることから、理系(工学部)の修士課程が多いのですが、学士課程を持つ大学もあります。いくつかの大学を紹介します。

### 環境先進国ヨーロッパの大学

まず、環境問題に意識が高く、環境先進国と呼ばれるヨーロッパです。ヨーロッパで学ぶとなると言語が障壁となりますが、インターナショナルプログラムとして英語で授業を行うスウェーデンの大学を紹介します。KTH Royal Institute of Technology (1872年設立のスウェーデンの6つの工科大学の中で一番歴史がある)には、Sustainable Energy Engineeringの修士コースがあります。プログラムの構成は①持続可能発電、②持続可能エネルギー利用、

③太陽エネルギーの3つの専門があり、それぞれ選択した分野に関連した大学研究施設や、産業界、政府研究機関で5、6カ月間の実務経験を組み入れたプロジェクトを行います。

また、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、アイスランドとパートナーシップを結び、Nordic Masters(北欧修士)プログラムに参加しており、共同研究やインターンを相互に行うことで連携しながら最新技術開発に取り組んでいます。

### 研究が進むアメリカの大学

環境経済学が進んでいるアメリカでは、エネルギー研究施設は圧倒的に中西部に集中しています。中でも環境問題への地域の意

### 再生可能エネルギー研究プログラムを持つ大学

国	大学名	プログラム名
アメリカ	Oregon Institute of Technology	Bachelor of Science in Renewable Energy Engineering Master of Science in Renewable Energy Engineering
アメリカ	University of Michigan	Master of Engineering Sustainable Systems
オーストラリア	Murdoch University	Master of Science in Renewable Energy
カナダ	University of British Columbia	Master of Science in Clean Energy
スウェーデン	KTH Royal Institute of Technology	Master of Sustainable Energy Engineering

今回は、急速に国際的な重要課題として議論されるようになってきたエネルギー分野を紹介します。国際政治問題として議論される課題は、解決に向けて学術研究が進んでいきます。日本では最重要課題のひとつとして、産学官民が連携して革新的エネルギー・環境戦略に取り組もうとしていますが、海外の大学ではどのような状況なのでしょうか。

識が非常に高い北西部、オレゴン州では、再生可能エネルギーへのシフト気運が高く、まさに地域が生んだ産業ともいえます。再生可能エネルギー工学で最初の学士プログラムはオレゴン工科大学に2005年に設立されました。再生可能エネルギー開発は、石油、石炭、天然ガスなど、利用時に地球温暖化や空気汚染のもとになる有害物質を排出する化石燃料への依存から脱却して、太陽光、風力、水力、地熱など自然界に存する非化石エネルギーを利用するための技術開発です。この学士プログラムでは、基礎コースとして数学、物理、化学を固め、電気・機械などの工学コースに進みます。専門コースでは、再生可能エネルギー地熱、バイオ燃料、風力、光電池などを学び、送電システム、エ

ネルギーマネジメントや監査など、技術だけでなく、エネルギー供給に関わる管理についても学びます。

### キーワードはサステイナブルな未来

卒業後の進路も、エネルギー系民間企業をはじめ、機械産業や環境関連産業の技術研究職、政府研究機関、非営利団体と幅は広がり、将来の人類の営みを持続可能(サステイナブル)なものにリードしていく、高い専門知識と技術を持った人材が求められることでしょう。

### 株式会社アゴス・ジャパン

大学・大学院留学のテスト対策、出願対策の指導専門校。トップ校合格に必要な各種英語テストの攻略法および出願カウンセリング指導により、過去3年間で約2,500件以上という、圧倒的な合格実績を誇る。大学でのテスト対策講座なども行っている。

### 後藤 道代 (ごとう みちよ)



留学カウンセラー歴18年、アゴス・ジャパン学部留学担当、インディアナ大学教育大学院、言語教育学修士、プリディンシュ・カウンシル公式資格取得カウンセラー